

特別寄稿

70歳は歴史の旅人



木下 正治（第22期）

昨今の世界情勢を見るとこれまでの経験則が成り立たなくなってきたように思います。われわれは時空四次元の世界に生きていますが、時間だけは不可逆で後戻りできません。世の中は時間の進行に沿って進歩していくという楽観主義で物事を見ていくと、歴史の中に刻まれた出来事が本当に必然なのか、それとも意図的な反逆なのかが見えてきません。歴史は繰り返すという言葉がありますが、社会的な悲劇の歴史を繰り返すことは、人間の英知としてぜひとも避けたいものです。

さて、長寿社会が到来し、また、社会の変化のスピードもどんどん速まっています。長生きをしていると、歴史に刻まれるような大きな出来事を数多く経験するということになり、時によっては歴史の証人にもなり得ます。戦前生まれの方々には、第二次世界大戦という残酷な戦争の正に歴史の証人でもあります。昭和21年生まれの私には、戦後の質素な生活から物質の豊かな生活への変化を体験できたことが幸せな出来事であり、親の世代とは際立った変化です。さらに、この70年間を振り返ってみますと、世界を揺るがすエポックメイキングな出来事が記憶に刻まれています。果たしてそれらは歴史の必然だったのか、それとも単に時代の流れの1シーンとして過ぎていったものだったのか。その出来事に対して、自分がどのように反応したのかを振り返ってみると、歴史の証人とはいえないまでも、旅人であるかのような感じがします。

I: 幼少時代

① 疎開先からの帰京(1950)

埼玉県川口市の疎開先から現在の東京の自宅に引っ越してきた。山手通りにはまだ牛車が移動していた。

② ビキニ環礁での水爆実験(1954)

第5福竜丸が被爆、原爆の悲惨さ再び。

③ 皇太子ご成婚(1959)

ミッチーブームを巻き起こした。

II: 学生時代

④ ベトナム戦争(米ソの代理戦争)(1960-75):

大国アメリカが、ベトナムにやられている。第2次大戦の戦勝国の力はどこへ行った？あわや、共産主義の勝利か？当時はよその出来事のように感じただけでしたが、その後、アメリカに留学してベトナム戦争の後遺症がアメリカ国民にとって、非常に大きいことを知りました。

⑤ ケネディ大統領暗殺と日米初の衛星中継(1963):

日本で衛星放送が始まったときの初めてのニュースがこれでした。楽しい夢のあるニュースを期待していたのですが、あまりの明暗の差に衝撃を受けました。いまだにケネディ暗殺の真相はよく分かっていません。アメリカの暗部を知らされた事件でした。

⑥ 中国文化大革命と紅衛兵(1966-76):

毛沢東は偉大だったかもしれませんが、子供たちを洗脳して紅衛兵にするなんて。中国はいまだにその後遺症を背負い、解消されてはいません。これも政治の負の大実験でした。ちょうど、大学紛争と重なる時期でしたので、周囲に毛語録を見せびらかしている人がいましたね。その人は今どうしているのでしょうか？

⑦ ドルショック(1971):

世界経済の成長にともない、ドルの金本位制が崩壊し、通貨は変動相場制へ移行した。アメリカに留学した時は1\$ = 360円でしたが、帰国したときには300円でした。

III: 東芝時代

⑧ オイルショック(1973,1978):

OPEC による原油価格の値上げ。スーパーではトイレトペーパーがなくなりましたね。石油ストーブの灯油を買うのに売り惜しみされたのは嫌な思い出です。

⑨ バブル経済と崩壊(1986-91):

日本経済がバブル景気となり、銀行の金利もどんどん上がった。挙句の果てが住宅ローンの金利は何と9%を超えてしまった。返済分はみんな金利分に回り、借入金は減少しないということが現実になった。私も住宅ローンで苦しみました。

⑩ ベルリンの壁、ソ連の崩壊(冷戦の崩壊)(1989-1991):

東西冷戦の象徴とされたベルリンの壁が崩壊し、ソ連までもが崩壊してしまった。戦後の政治経済のなかで、マルクス・レーニン主義は時代を席卷する勢いがあり、労働者階級の希望の星でした。しかし、その時代(1922-1991)は僅か70年間で、人文科学上の一大失敗実験だった。1991年にMBI研修でベルリンのブランデンブルグ門を通ったときそう感じました。また、70年の寿命というと、現在は第2次大戦後70年です。今、全世界で起きている政治の変化は必然的に起きたものだとも考えられます。



東西冷戦終結後のブランデンブルグ門の前で



ベルリンの壁の欠片、お土産で10マルク
しました。本物かどうか？

IV: 転職(ニッタ・ハース)から定年時代

⑪ 同時多発テロ(2001.9.11):

航空機をハイジャックして、機体ごと世界貿易センタービルに突っ込んで自爆するなんてことを誰が予想できたでしょうか？日本のゼロ戦特攻は戦時下で起きたことですが、こちらは平時に起きたことでした。民族、宗教、嫌悪などが戦争を引き起こす要因になっていくのは理不尽です。

⑫ イラク戦争の勃発と爆撃の実況中継(2003):

戦争がまるでゲーム感覚になり、茶の間のTVで観戦できる。あり得ないことが起きた。これをIT技術の成果と言っていいものかどうか。

⑬ リーマンショック金融危機(2008):

会社の売上が一気に4割も落ち込んで、あっという間に赤字になってしまった。大変なショックでした。

⑭ 東日本大震災と原発事故(2011.3.11):

津波の恐ろしさが実況中継されるなんて、見ているだけでゾクゾクと寒気がしてきました。ちょうど建替えた家の引っ越し準備中で、思わず壁を抑えて耐震強度の確認をしてしまった。また、東電福島第一原発事故は今の東芝の危機の誘因にもなっているので、怖さも一入です。

⑮ EUからのイギリスの撤退(2016):

EUというのはヨーロッパの国々が第2次世界大戦の反省、疲弊したヨーロッパの将来の姿を描いて作り上げようとした理想の多国籍の共同体だと思っていたが、これも70年の期間を経て変容しなくてはならないのか？まさに、現在進行形のことなので、歴史が作られている感じがします。

⑩ トランプ大統領出現(2016):

日本人には惻隱の情という相手を思う奥ゆかしさがありますが、アメリカ人にはそんなものはちっとも無いという典型がこの人。利己的で、人の揚げ足取り、言いたい放題で、責任を取らない。それでも大統領になってしまうというのがアメリカの民主主義なのか？ アメリカをもう一度偉大な国にするという言葉とは裏腹に、アメリカの凋落を促進していると同時に、世界を利己的な方向に向かわせる原動力になり、悲劇をもたらしてはしないだろうか？

これまでの人生 70 年間を歴史の旅人として振り返ってみました。良い出来事は当たり前であんまり記憶に残らず、良くないことはその衝撃の強さで記憶に刻まれているようです。そして、それらの出来事は社会に対して多くの負の結果をもたらし、当時の人々は多くの犠牲を払ったことも事実です。それでもこのような出来事がなくなるのは何故なのでしょう？ 時間は不可逆に過ぎてしまい、人生も時間とともに過ぎて行ってしまいます。歴史というのは多くの犠牲の上に積み重ねられたものにしか過ぎないのでしょうか？ それではあまりにもむなしい気がします。歴史を知ることは単に過去を知るのではなく、未来に対して洞察を加えることだとするのならば、現在起こっている出来事が社会の悲劇にならないように、英知を働かして、努力していくことが大切なのだと感じました。

私自身この旅を経験しその中で生きてきたことにより、人生経験が少しでも豊かになり、歴史を見る目も養われたと思いたいところです。

<2017.7.18 記>

☆☆☆